

嚥下造影検査の説明と同意書

1. 嚥下造影検査とは

嚥下造影検査とは、飲み込みの過程や状態を正確に評価するための検査です。バリウムを混ぜた食べ物を実際に食べていただき、X線を透過しテレビ撮影をします。

また、評価だけでなく、必要に応じてより安全な食べ方や飲み込み方の工夫などの治療的手技も行います。

2. 検査方法

①放射線科のX線テレビ室という部屋で行われます。

②車椅子または椅子に座っていただきます。

③お出しする食べ物、飲み物をふだん通りに飲食してください。

④撮影する部位は、口からのど、食道上部までです。

⑤食道の通りやすさを検査するために、側面からX線撮影します。場合により正面から撮影することもあります。

⑥検査は、30～45分程度かかります。

3. 合併症

①この検査で主に使用する薬(造影剤)は胃の検査などにも使用するバリウムです。

バリウムは、飲み損ねて気管や肺などの呼吸器に大量に流入しますと、肺炎や肺水腫を起こし、ごくまれに、致命的な結果に至ることがあります。

②X線を使用しますので、被曝を伴いますが、通常の消化管検査の1/10程度です。検査は被曝による影響より、検査で得られる情報の方が有用と判断したため行うものです。

以上、説明を受け、嚥下造影検査の実施に同意します。

平成 年 月 日

本人署名

家族署名
(ご本人が署名できない場合)

説明医師